

オリンピックが凱旋

市民が雄姿をたたえろ

本市出身で第24回オリンピック冬季競技大会日本代表として活躍した永井秀昭さん、小林潤志郎さん、小林陵侑さんが凱旋（土屋正恵さんは合宿のため欠席）。市民栄誉賞・スポーツ栄誉賞授与式や五輪報告会に出席し、市民と交流しました。

市民栄誉賞・スポーツ栄誉賞授与式は5月6日、市総合運動公園体育館で開かれ、日本を代表し、世界を相手に戦い抜いた3選手を祝おうと市民ら約250人が参加しました。

式では、オリンピックスキージャンプ男子個人で金、銀メダルを獲得し、W杯で自身2度目となる総合優勝を果たした小林陵侑さんとオリンピックに3大会連続で出場し、ノルディック複合団体で銅メダルを獲得した永井秀昭さんに市民栄誉賞を贈りました。また、2大会連続でオリンピックに出場した小林潤志郎さんと本市で初めてクロスカントリー競技でオリンピック出場を果たした土屋正恵さんにスポーツ栄誉賞を贈りました。

佐々木孝弘市長は「選手の皆さんに

たくさんの感動をいただいた。スキージャンプの日本のエースとして、大会で日本勢第1号となる金メダルを獲得した小林陵侑選手やノルディック複合団体で銅メダルを獲得した永井秀昭選手、ジャンプ団体入賞に貢献した小林潤志郎選手、力を振り絞り懸命に前の選手を追う姿を見せてくれた土屋正恵選手。4人の選手それぞれから明るい希望と活力をいただいた。すでに次の目標に向け、走り出していると思います。皆さんの活躍を期待しています」とたたえました。

受賞者を代表してあいさつした永井さんは「市民栄誉賞という栄誉ある賞をいただき、本当に感動しています。この栄誉は、私個人の力だけではなく、一緒に団体戦を戦ったチームメイトや監督、コーチ、活動を支え続けてくれた家族そして応援

してくださった人たちのおかげです。私のオリンピックへの挑戦は今回で終わりましたが、違う角度から競技に携わっていきたいと思います。これから市から日本や世界で活躍できる人材が誕生することを願っています」と受賞の喜びを伝えました。

市民栄誉賞は、広く市民に敬愛され、市民に明るい希望と活力を与えた者をたたえるため、平成26年に制定。制定以来、初の授与となります。

スポーツ栄誉賞は、スポーツに対する関心を高め、市民に明るい希望と活力を与えた者をたたえるために平成31年に制定。令和元年に小林陵侑さんが受賞して以来の授与となります。

式典後は、北京2022冬季五輪報告会が開かれ、五輪の思い出を語ったり市民からの質問に答えたりなど和やかな雰囲気になりました。

また同日、永井さんは母校の田山小、安代小、安代中を訪問。小林潤志郎さん、陵侑さんは柏台小をそれぞれ訪問し、無限の可能性を秘めた子どもたちとの交流を深めました。

1、2市民栄誉賞を受賞した小林陵侑さんと永井秀昭さん 3スポーツ栄誉賞を受賞した小林潤志郎さん 4選手を代表し選手生活を振り返りながら感謝の意を伝える永井さん 5オリンピックを振り返りながら市民の質問に答える小林陵侑さん 6国体開催を記念して作られたカウントダウンボードにサイン 7会場に集まった市民に手を振りながら退場 8式典には参加できなかった土屋正恵さんが後日道の駅にしねに設置されたカウントダウンボードへサイン



3選手がそれぞれの

母校を訪問しました

各校の様子を紹介します

柏台小

特製のうちわや太鼓で出迎えた児童たち。緊張した面持ちで質問したり、金、銀と二つのメダルに触れたり憧れの先輩たちとの交流を楽しみました。



安代中

講演や質問コーナーなどを行った後、生徒たちはメダルに触れました。生徒は「想像以上に重かった。自分もメダルが取れるような選手になりたい」と熱い思いを語っていました。



安代小

地元出身者のメダリストの登場を心待ちにしていた子どもたちは、永井選手の講演に真剣に耳を傾けました。短い時間の中、多くの子どもたちが質問するなど凱旋を喜びました。



田山小

学校の大先輩である永井選手の登場を楽しみにしていた子どもたちは、記念撮影やメダルに直接触れるなど貴重な体験に大いに盛り上がっていました。

